



伊倉っ子
だより

【学校教育目標】

豊かな心と確かな学力を身に付け、
心身ともにたくましく生きる
児童の育成

伊倉小学校だより
第10号
令和8年9月15日
文責：校長 須藤 隆

前期後半がはじまって…

前期後半がスタートして約2週間が経ちました。5年生が植えた田んぼの稲も大きく育っています。夏休み明けも厳しい残暑が続く、熱中症対策で外遊びが制限される日もありますが、夕方の早まった日暮れや涼しい風に、少しずつ秋の気配を感じる頃となりました。

学校の田んぼの稲の様子



そのような中、子供たちは日々の学習や活動に熱心に取り組み、全体的に落ち着いて学校生活を送れています。季節の変化の中で、前期の締めくくりまで残り約3週間です。これまでの頑張りを確かな成長へとつなげ、しっかりとまとめを行い、良い形で後期を迎えられるよう支援してまいります。

教育実習生が来ました

9月1日から伊倉小学校に、教育実習生の「ホームページ上では名前を省略します」先生が来られ、先生になるための勉強をされています。

スポーツクラブに参加されている様子



本校の卒業生（平成〇〇年度卒）で、現在は大学4年生です。サッカーが得意で足が速く、朝から子供たちと一緒に運動場で交流されています。

主に4年生の学級で指導法を学んでいますが、他の学年の授業や活動にも参加しています。実習期間は10月1日までの1か月間となります。先生とたくさんの思い出を作りながら、みんなで楽しく充実した毎日を過ごしてほしいと思います。

水俣に学ぶ肥後っ子教室

5年生が17日、18日に「あしきた青少年の家」で「集団宿泊教室」を行います。この集団宿泊教室は、集団生活を通じて自主性と協調性を養い、様々な自然体験や共同生活の中で友達との絆や豊かな人間関係を深めることを目的としています。5年生行事の中でも大きな行事の一つで、子供たちはとても楽しみにしています。

今回の集団宿泊教室に併せて「水俣に学ぶ肥後っ子教室」も行います。これは、水俣病の歴史や差別、環境問題について正しく理解することを目的としています。さらに、実際に水俣の地を訪れ、公害の教訓から環境保護の重要性を学び、命の尊さや差別を許さない心を育みます。県下の全小学5年生が水俣の地を訪れて学習をします。

水俣病については保護者の皆様もよくご存知のことと思います。水俣病は、化学工場からの排水に含まれるメチル水銀が原因で発生した公害病です。今年は水俣病が公式に確認されてから70年目になりますが、今もなお間違った認識があるため、正しい理解に向けた取り組みが求められています。正しい知識を持つことは、不当な偏見や差別を防ぐ第一歩となります。水俣を訪れる前の事前学習、現地学ぶ「水俣に学ぶ肥後っ子教室」、そしてその後の事後学習という一連の学習を通して、水俣病の歴史だけでなく、人権侵害に苦しんだ人々の思いや環境保護の大切さを学びます。

子供たちは5年生になって学びますが、他学年においてもぜひご家庭で水俣病について話題にし、人権意識や環境保全の重要性を共に考えていただければと思います。

※写真はすべて昨年度の様子です

ペーロン船を漕ぐ様子



水俣病について話を聞いている様子



環境について学習している様子



